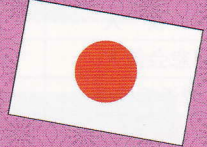

桜を通じた
日米交流


杉浦正行

ワシントン桜百周年にあ
 わせ、国際協力団体の子ど
 もの森計画の活動で、平成
 二十四年四月十日米国に訪
 問しました。同窓会からも
 中根義一副会長と後藤齋支
 部長に同行していただき、
 全国から二十名参加しまし
 た。

ニュージャージー州の都
 市ラリタンにあるジョン・
 F・ケネディ小学校に桜の
 苗木を記念植樹してしまし
 た。

ネディ小学校の学校関係者
 生徒等百余名が式典に参加
 していただきました。
 植樹した桜は、千九十二
 年に東京市(当時)が首都
 ワシントンとの友好を深め
 るため、タフト大統領夫人
 に寄贈した桜に由来する四
 代目のものであります。

東京からワシントン
 のポトマック河畔に植
 えられた桜は、本校初
 代教頭熊谷八十三先生
 が深く関わっておられ
 ます。
 当時東京からワシン
 トンには二度桜を送っ
 ております。
 一度目は、東京市が
 業者を通じて二千本
 送っています。最初の
 桜は病害虫が多く、米
 国の検疫で全部焼却さ
 れました。
 尾崎行雄東京市長は、
 二度目の苗木の送付を



決意します。
 苗木を依頼された
 のが、東京府立園芸
 学校長から国立興津
 農事試験場主任技師
 に就任されていた熊
 谷八十三先生であり
 ます。
 熊谷八十三先生は
 山桜の台木に病害虫
 のついていない三千
 本の苗木を接ぎ、米
 国へ送りました。贈
 られた苗木は厳密な
 検疫検査を受け、す
 べて合格しました。
 熊谷八十三先生が



作られた桜により、当時の
 日本農業の技術力の高さを
 示すことができました。
 先生の農業に対する研究
 心や技術力の高さを感銘す
 るとともに、母校に携われ
 た功績を強く感じました。
 当日、ジョセフ・ワルシュ
 校長からは「桜が生き続け
 る平和と友好、地域社会の
 シンボルになるように」と
 のあいさつを受けました。

私も、「桜が見事に育ち、
 子どもたちが自然と環境の
 大切さを学び、世界の平和
 を理解してくれる人になっ
 て欲しい」と述べました。
 日米友好の証として、熊
 谷八十三先生から受け継が
 れた苗木が成長し、美しい
 花を咲かせてくれることを
 願っております。